

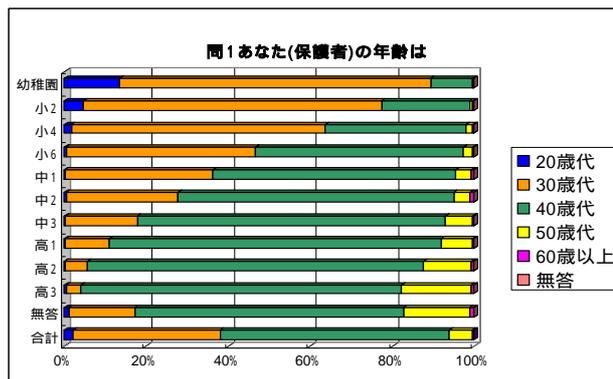
(2) 保護者

ア 基礎項目について

(ア) 保護者の年齢について

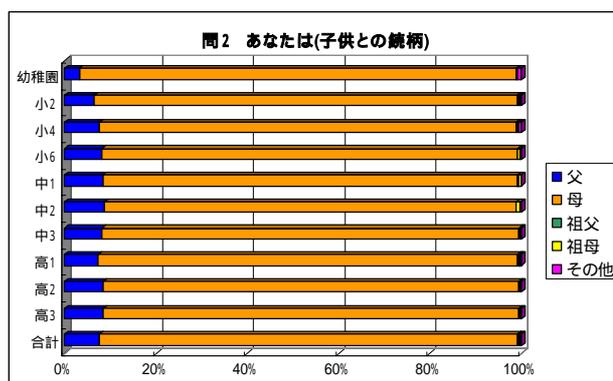
小学4年生までは、30歳代以下の保護者が大半であり、小学6年生からしだいに40歳代が増える。全体的には、30歳代から40歳代で91.7%を占める。

(学年無回答の保護者の回答は、問2以降除外した)



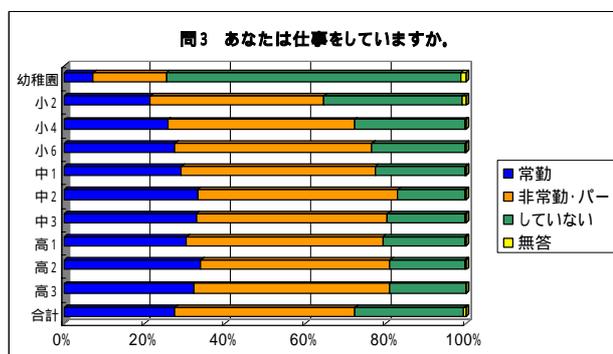
(イ) 保護者と子供との続柄について

回答者の91.6%が母親であり、父親は7.6%である。したがって、以下の結果は母親の考えととらえて差し支えない。

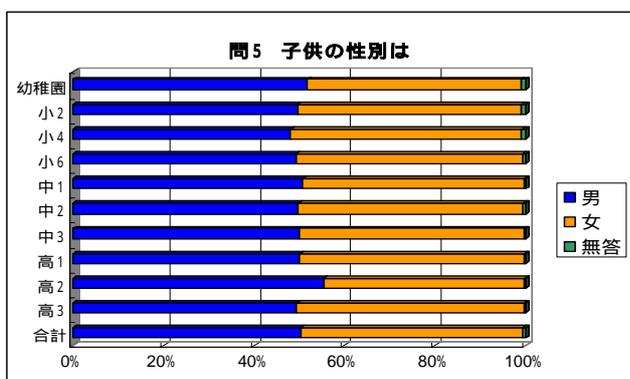


(ウ) 保護者の仕事について

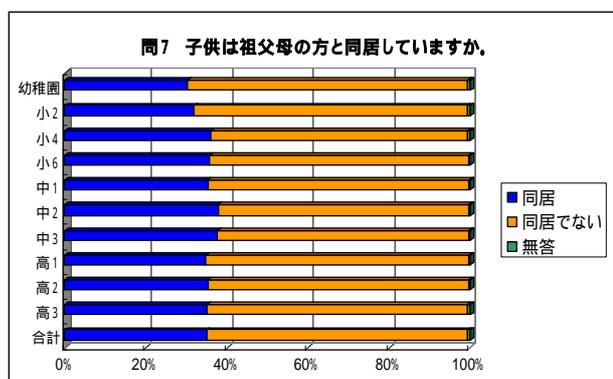
非常勤・パートを含めた全体の就業率は72.4%であるが、幼稚園では73.4%が仕事に就いていない。



(I) 学年と子供の性別について

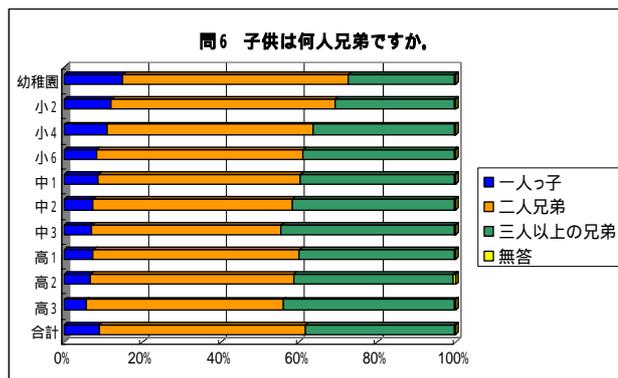


(オ) 祖父母との同居について



(カ) 兄弟について

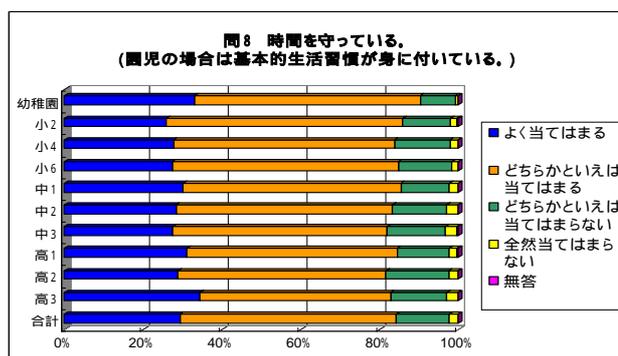
どの学年も，二人兄弟が一番多く，52.7%である。一人っ子の割合は，幼稚園が15.1%と一番高く，学年が進むにつれて低くなる。また，三人以上の兄弟は38.1%である。



イ 保護者がとらえている子供について

(ア) 時間について

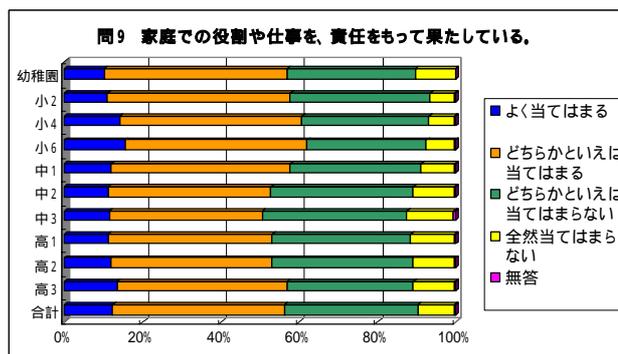
84.3%の保護者が肯定的回答をしている。幼稚園の保護者の割合が高いのは，幼児期に基本的な生活習慣を身に付けさせたいと願い，声を掛けている成果とも受け取れる。



(イ) 家庭での役割や仕事について

56.4%の保護者が肯定的回答をしている。中でも，小学6年生の保護者は最も割合が高く，62.2%である。

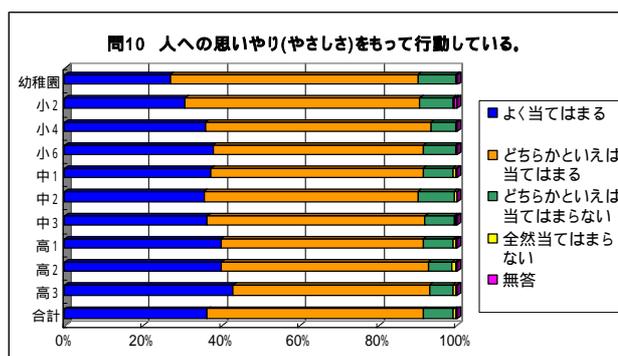
児童生徒の回答と比較してみると，児童生徒は充実感を感じているのに対し，保護者は必ずしも満足してきていない。



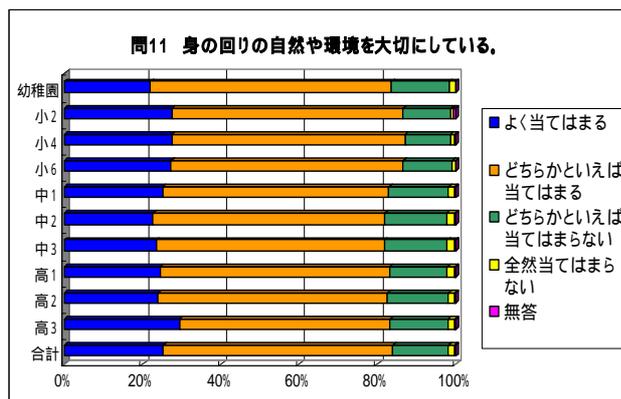
家庭での役割や仕事を，責任をもって果たしている	
保護者の回答	56.4%
児童生徒の回答	78.7%

(ウ) 人への思いやり(やさしさ)について

91.4%の保護者が肯定的回答をし，子供たちが人への思いやり(やさしさ)をもっているのとらえている。

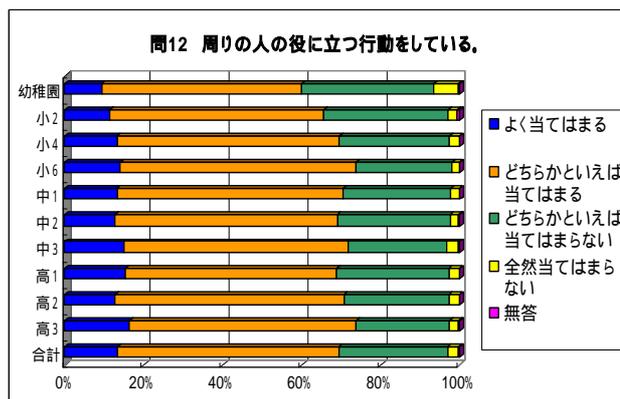


(I) 自然や環境について



84.0%の保護者が肯定的回答をし、自然や環境について子供たちの関心は高いと考えている。

(オ) 人の役に立つ行動について

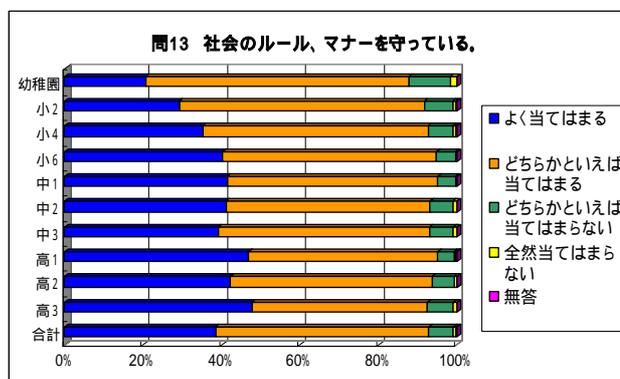


69.4%の保護者が肯定的回答をしている。

(カ) 社会のルール、マナーを守ることにについて

92.9%の保護者が肯定的回答である。児童生徒の回答〔学校のきまりを守っている(82.4%)〕と比較すると乖離がある。保護者は〔社会のルール、マナー〕を広く受け止めているのではないかとと思われる。保護者がとらえるマナー、ルールの中に学校のきまりが含まれているかどうかは、不明である。

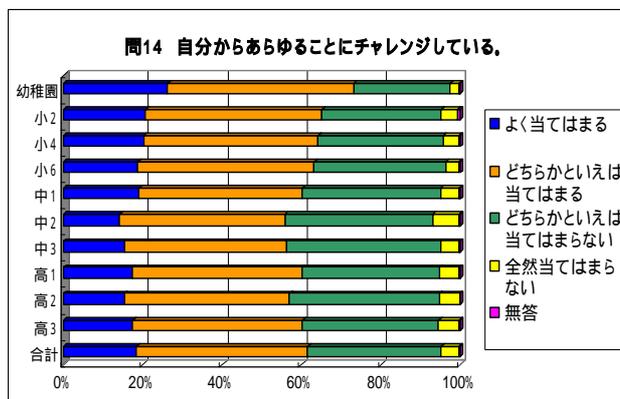
肯定的回答でみると、幼稚園から小学6年生の保護者で割合が高くなる。



(キ) チャレンジすることについて

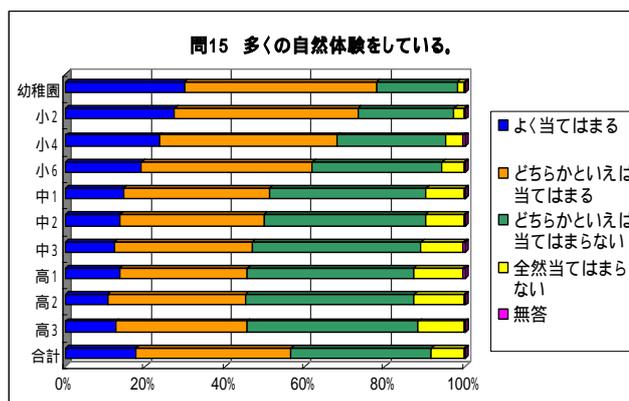
肯定的回答の割合が一番高いのは幼稚園の保護者で、好奇心旺盛な幼児期の特徴がうかがわれる。

肯定的回答でみると、幼稚園(73.3%)から中学3年生(56.4%)にかけて、割合が低くなる。



(ク) 自然体験について

肯定的回答でみると、学年が進むにつれて保護者は、自然体験が減っているととらえている。保護者と一緒に過ごす時間の多い幼児と、部活動や塾通いなどで自分の時間をもつことが少なくなっていく児童生徒との生活の違いによるものと思われる。

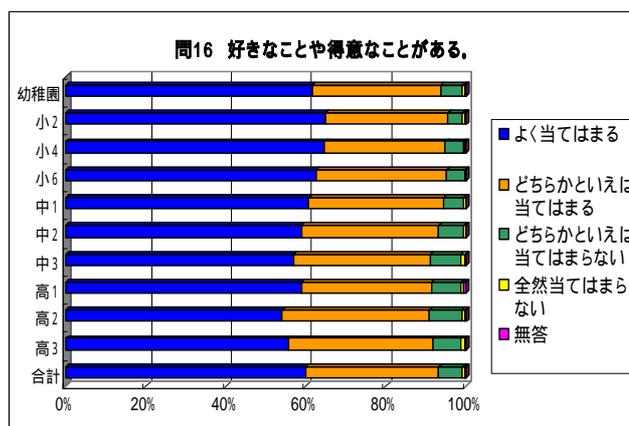


(ケ) 好きなことや得意なことについて

59.9%の保護者が「よく当てはまる」と回答している。

また、93.2%の保護者が肯定的回答をし、学年にかかわらず、子供たちにはそれぞれに好きなことや得意なことがあるととらえている。

否定的回答の割合が8%を超えるのは中学3年生から高校3年生の保護者で、学年が進むにつれて少しずつ子供の興味・関心が理解できなくなっていると思われる。



(コ) 問8から問16を子供の意識や行動を聞いた設問と比較してみ

保護者がとらえている子供の姿と児童生徒の意識や行動の回答を比較してみると、保護者の方が児童生徒本人よりも肯定的にとらえているという結果が得られた。それは、保護者の子供に対する期待や願いとも受け取れるが、子供のある一面の姿だけで判断しているとも受け取れる。

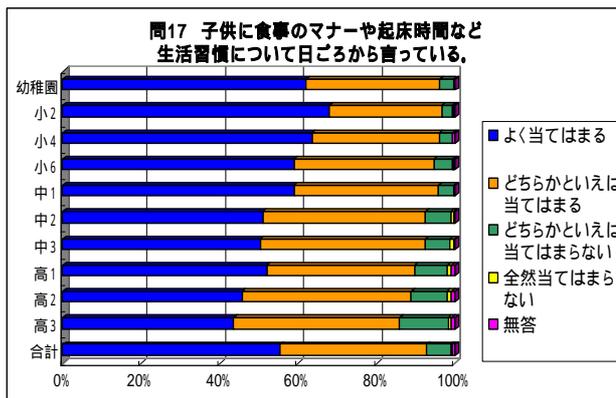
問	保護者の回答	児童生徒の回答
【保護者】 問8 時間を守っている。 【児童生徒】 問35 時間を守っている。	84.3%	77.9%
【保護者】 問10 人への思いやり(やさしさ)をもって行動している。 【児童生徒】 問39 人にやさしくしている。	91.3%	84.1%
【保護者】 問11 身の回りの自然や環境を大切にしている。 【児童生徒】 問40 自然保護や環境保護に心掛けている。	84.0%	68.9%
【保護者】 問12 周りの人の役に立つ行動をしている。 【児童生徒】 問19 自分は人の役に立っている。	69.4%	46.3%
【保護者】 問13 社会のルール、マナーを守っている。 【児童生徒】 問38 学校のきまりを守っている。	92.9%	82.4%

ウ 保護者の意識や行動について

(ア) 生活習慣について日ごろから言っていることについて

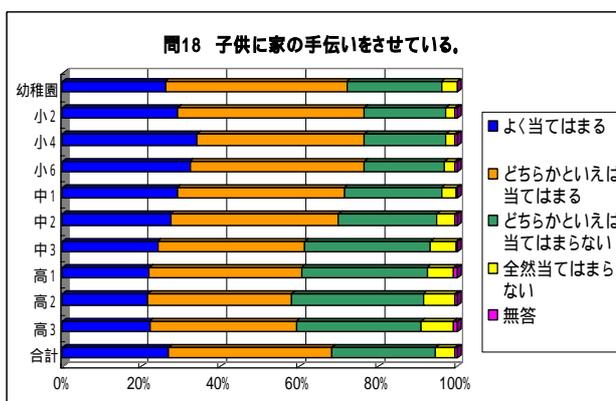
92.8%の保護者が肯定的回答をし、保護者の意識はかなり高い。

「よく当てはまる」と回答した保護者が50%を切るのは高校2年生、3年生である。また、肯定的回答でみると、90%を切るのは高校1年生以上の保護者である。高校生になれば、細かいことまでは言わなくなる傾向にある。



(イ) 家の手伝いをさせることについて

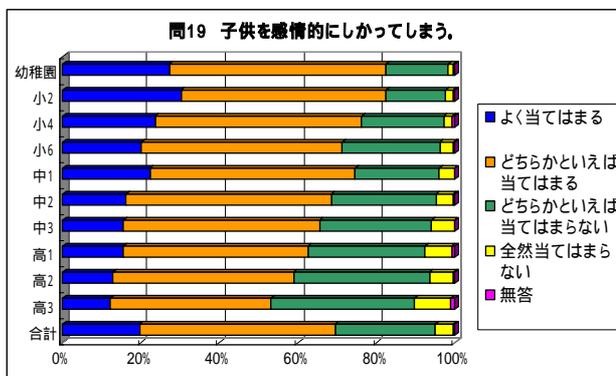
「よく当てはまる」の割合が高いのは、小学生の保護者である。また、肯定的回答でみても、小学生だけが76%を超えており、手伝いをさせることへの保護者の意識の高さがうかがえる。一方、中高校生の保護者は子供が勉強や部活に忙しくなるのか、あるいは子供が親の言うことを聞かなくなるのかは明らかでないが、その割合は低下している。



(ウ) 感情的に叱ってしまうことについて

69.5%の保護者が肯定的回答をしている。

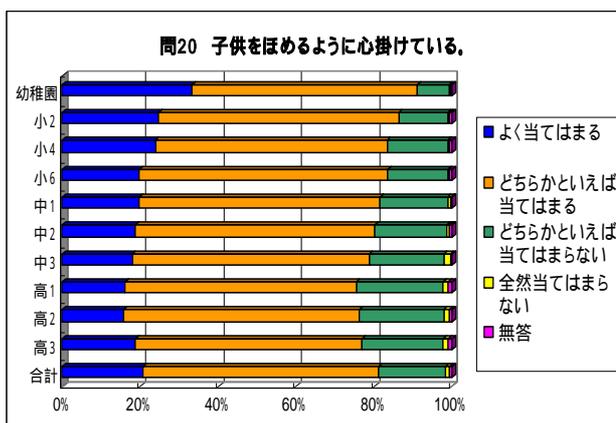
子供の学年が進むにつれて割合は低くなる（幼稚園 82.4%～高校3年生 53.1%）。



(イ) ほめるように心掛けていることについて

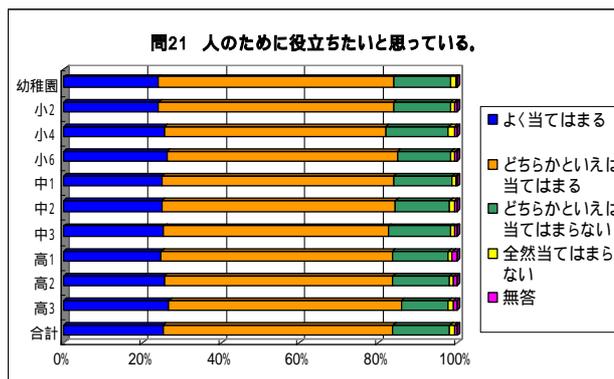
81.3%の保護者が肯定的回答をしている。

特に、学年が低いうちの割合は高く、学年が進むにつれてしだいに低くなる（幼稚園 91.2%～高校1年生 75.4%）。



(イ) 人のために役立ちたいと思うことについて

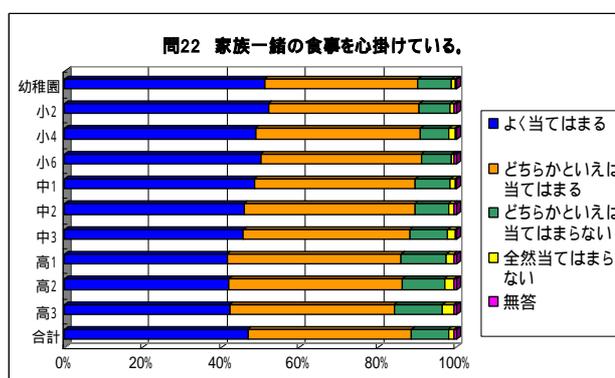
83.8%の保護者が肯定的回答をし、人のために役立つことの大切さを認識していることが分かる。



(カ) 家族一緒にの食事を心掛けていることについて

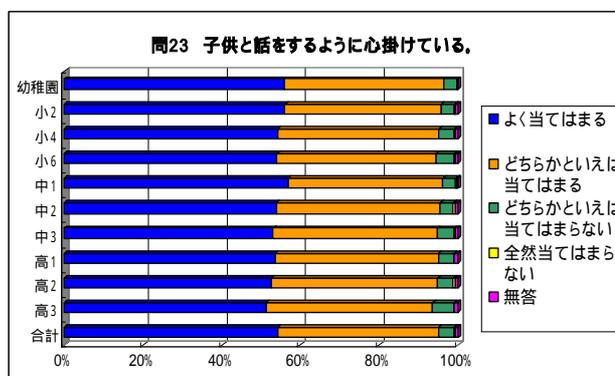
88.5%の保護者が肯定的回答をし、保護者の意識はかなり高い。

学年に関係なく、保護者は家族一緒にの食事を心掛けていることが分かる。



(キ) 話をするように心掛けていることについて

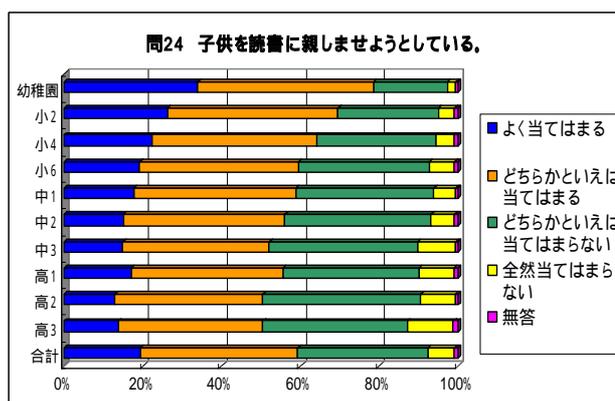
95.1%の保護者が肯定的回答をし、この項目でも保護者の意識はかなり高い。学年が進むにつれて、子供と会話をする時間が少なくなり、意識も低下すると思われたが、学年に関係なく、「よく当てはまる」は50%を超えている。



(ク) 読書に親しませようとしていることについて

「よく当てはまる」を回答した保護者は、幼稚園が34.1%で、学年が進むにつれてしだいに低くなる(高校2年生 13.0%)。また、肯定的回答でも同様に低下している。

また、保護者の回答と児童生徒との回答に差がない。



エ 保護者が望む子供の将来の姿について

回答は「一番目に思うもの」、「二番目に思うもの」、「三番目に思うもの」と、3つを選択するようにした。一番目、二番目、三番目のそれぞれに選択されたものを高い割合順にまとめると以下のようになる。

【選択肢】

- (1) 家族を大事にする人 (2) 地位や名声のある人 (3) 社会で信頼される人  
 (4) 誠実な人 (5) 他人に迷惑をかけない人 (6) 明るく朗らかな人  
 (7) 学業成績が優秀な人 (8) 健康な人 (9) こつこつと努力する人  
 (10) その他

		1 位		2 位		3 位	
幼稚園	一番目	健康	33.1%	明るく朗らか	20.4%	迷惑をかけない	19.6%
	二番目	明るく朗らか	26.8%	迷惑をかけない	20.7%	健康	15.5%
	三番目	明るく朗らか	19.9%	家族を大事	16.7%	こつこつと努力	15.1%
小2	一番目	健康	27.2%	迷惑をかけない	25.8%	明るく朗らか	17.2%
	二番目	明るく朗らか	24.9%	迷惑をかけない	22.4%	健康	13.2%
	三番目	明るく朗らか	17.6%	こつこつと努力	16.7%	家族を大事	15.0%
小4	一番目	健康	25.8%	迷惑をかけない	25.7%	明るく朗らか	16.0%
	二番目	迷惑をかけない	24.3%	明るく朗らか	23.0%	健康	13.8%
	三番目	明るく朗らか	18.6%	こつこつと努力	16.6%	家族を大事	15.9%
小6	一番目	迷惑をかけない	27.5%	健康	27.4%	明るく朗らか	13.2%
	二番目	明るく朗らか	22.4%	迷惑をかけない	22.2%	家族を大事	13.6%
	三番目	こつこつと努力	18.2%	明るく朗らか	16.4%	家族を大事	15.9%
中1	一番目	健康	26.4%	迷惑をかけない	25.8%	明るく朗らか	14.3%
	二番目	迷惑をかけない	22.3%	明るく朗らか	20.6%	健康	13.4%
	三番目	こつこつと努力	16.8%	明るく朗らか	16.1%	家族を大事	16.0%
中2	一番目	迷惑をかけない	27.2%	健康	25.9%	明るく朗らか	12.5%
	二番目	迷惑をかけない	21.7%	明るく朗らか	18.0%	健康	12.3%
	三番目	明るく朗らか	17.2%	こつこつと努力	16.9%	家族を大事	15.8%

		1 位		2 位		3 位	
中 3	一番目	健康	25.2%	迷惑をかけない	25.1%	明るく朗らか	13.6%
	二番目	迷惑をかけない	23.9%	明るく朗らか	17.9%	健康	12.4%
	三番目	コツコツと努力	16.0%	家族を大事	15.8%	社会で信頼	15.7%
高 1	一番目	迷惑をかけない	27.9%	健康	24.2%	誠実	10.6%
	二番目	迷惑をかけない	19.8%	明るく朗らか	17.3%	健康	13.5%
	三番目	コツコツと努力	16.0%	明るく朗らか	15.7%	社会で信頼	15.4%
高 2	一番目	迷惑をかけない	26.6%	健康	25.5%	家族を大事	12.8%
	二番目	迷惑をかけない	22.8%	明るく朗らか	18.1%	健康	13.2%
	三番目	コツコツと努力	16.5%	明るく朗らか	15.9%	社会で信頼	15.8%
高 3	一番目	迷惑をかけない	30.0%	健康	24.6%	家族を大事	11.1%
	二番目	迷惑をかけない	22.6%	明るく朗らか	16.7%	健康	13.2%
	三番目	社会で信頼	16.9%	コツコツと努力	15.8%	家族を大事	15.7%

「健康な人」、「明るく朗らかな人」、「他人に迷惑をかけない人」がほとんどである。

学年が低いうちは「健康な人」、「明るく朗らかな人」と回答する保護者の割合が高く、学年が進むにつれ、「他人に迷惑をかけない人」、「コツコツと努力する人」の回答の割合が高くなっていく。これは、学年が低いうちは「子供本人が明るく健康で育てたい」と願いながら子育てをするのに対し、学年が高くなるにつれて勉強についての期待が膨らんでくるからではないかと思われる。

「家族を大事にする人」は、学年に関係なく、二番目もしくは三番目で選択している。

「社会で信頼される人」の割合が高くなっていくのは中学3年生からで、高校生にかけての割合が高くなっていく。社会に出て行くことを想定した期待が生まれてくるからなのではないかと考えられる。

この問いを通して、「地位や名声のある人」、「学業成績が優秀な人」を選択する保護者は大変少ない。

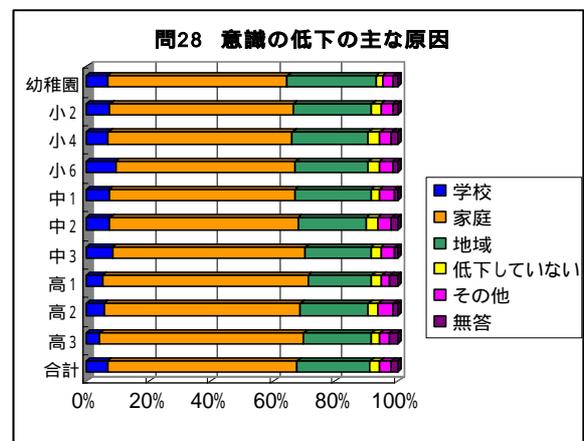
## オ 意識低下の原因について

### (ア) 低下の原因

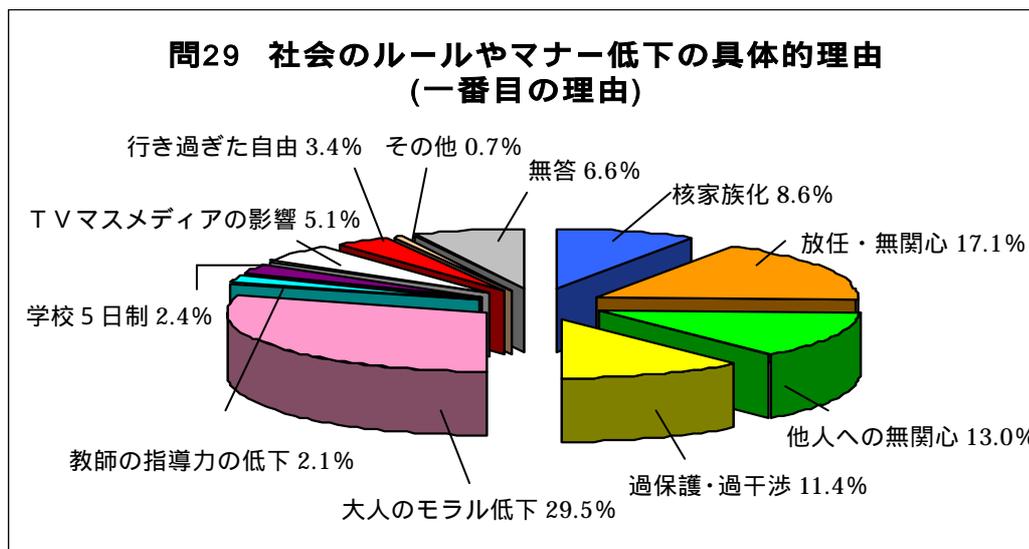
95.2%の保護者が社会のルールやマナーを守る意識が低下していると感じている。

その原因を61.1%の保護者が「家庭の教育力の低下」と回答し、学年に関係なく一番の原因ととらえられている。

「低下しているとは思わない」と回答した保護者は3.1%である。



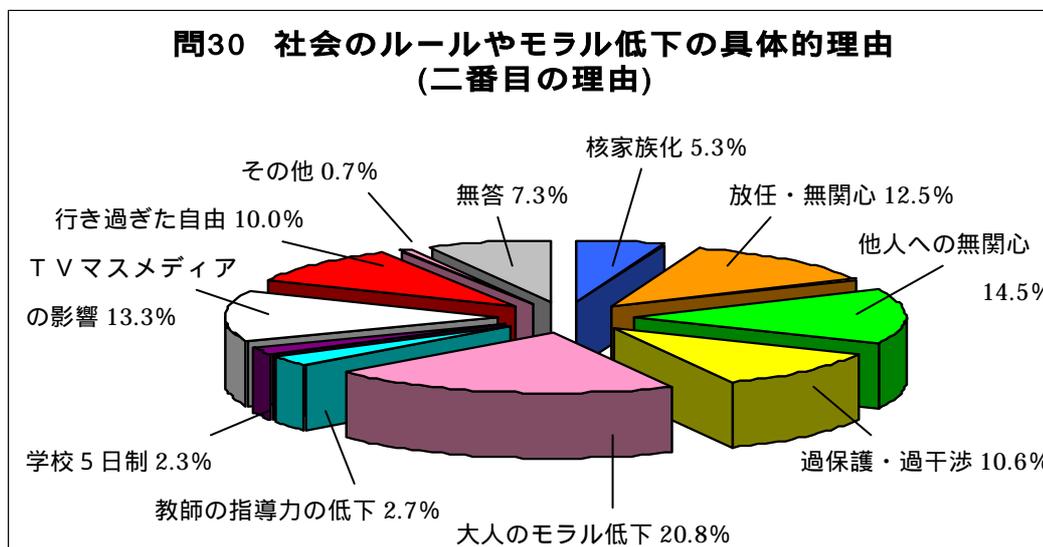
(イ) 具体的な原因 一番目の理由



学年に関係なく，一番多く選択されたのは「大人のモラル低下」である。

二番目に多く選択されているのは「子供への放任・無関心」，三番目に多く選択されているのは「他人に対する無関心」である。これらの結果から保護者は，大人が原因で子供たちのルールやマナーを守る意識が低下していると考えていることがうかがえる。

(ウ) 具体的な原因 二番目の理由



ここでも，一番多く選択されたのは「大人のモラル低下」である。

二番目に「他人に対する無関心」を選択した保護者が多いのも問29と同じだが，中学1年生と高校2年生で「TV等マスメディアの影響」が二番目に多くなっているのを始め，小学4年生以上の学年でも三番目に多く選択され，割合が高くなっている。また，問29に比べ「行き過ぎた自由」を選択する割合が高くなっているのが目立つ。

[本文に戻る](#)